

# 【活動報告書】

オホーツク地区サッカー協会 審判委員会 2種担当 大石かおり

網走で行われた高校総体北海道予選大会において、オホーツク地区のユース審判員2名が参加しました。

日時 令和4年6月14日（火）～17日（金）  
場所 網走スポーツトレーニングフィールド  
参加者 鈴木 辰汰（ユース3級審判員、北見柏陽高校2年）  
秋山 心音（ユース3級審判員、北見柏陽高校3年）  
感想

他にも、十勝地区の男子（コース3級）、北空知地区の女子（コース2級）の計4人のコース審判員が参加しました。

今回の全道大会では、人のつながりを深く感じる大会でした。オホーツク地区の審判の方々はもちろんのこと他地区のユース審判であったり、元々オホーツク地区にいた先生方、北海道の強化指定審判員の人たちやインストラクターの方々、1級審判員などほかにも様々な方々と交流する機会があり、その方たち一人一人の発言が自分の貴重な経験となっています。この経験を無駄にせず少しでも地区に還元していくとともに、自分のさらなる成長に繋げていき、来年の全道、全国に行けるようにこれからの審判活動に生かしていきたいです。（鈴木辰汰）

私にとっては、全道大会や女子の試合、女性審判員と組むことなど初めて経験することが多くあり、今回の大会を通して学べたこと、得られたことが沢山ありました。中でも印象に残っていることは、「女子選手への配慮」についてです。女子選手特有の怪我や体調もあるのを知り、今まで以上に試合中に選手の様子を見ること、コミュニケーションをとることは意識しようと思いました。

準決勝でA2を務めさせて頂いた際には、2日目のプラクティカルトレーニングで練習したオフサイドの見極めを活かし、戻りオフサイドを意識してとることができました。今後、地区の審判員ともトレーニングを積んでいき、選手の納得のいくレフェリングが出来るよう頑張ります。

そして今回組ませていただいた審判の方々全員に共通して参考にしたかった点は、「審判員同士よく目を合わせていたこと」です。私は極度の緊張の中での試合だったので、とても安心して取り組むことができました。正しいレフェリングをする為にも、雰囲気の良い試合を作る為にも、笑顔で目を合わせることはどの審判員と組ませていただく時も続けていこうと思いました。最後になりましたが、正直、高校生という立場で全道大会の審判をさせて頂けるとは思ってもいなかったもので、今回私が審判をするにあたって関わってくれたの方々には本当に感謝の気持ちでいっぱいです。そして何より楽しかったです！今回の経験をこれからの審判活動に大いに活かしていきたいと思います。貴重な経験をさせて頂きほんとうに有難うございました。（秋山心音）



鈴木君は、男子の試合の副審1試合、第四審1試合を担当。



秋山さんは、女子の試合の副審2試合、第四審1試合（決勝）を担当。

2人とも、6/25オホーツク中学校サッカー大会では主審も務めました！

